さがみはら生物多様性ネットワーク ニュース

第21号
発行日
2024年12月

発行　さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。
生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

ネイチャーポジティブって何だろう？

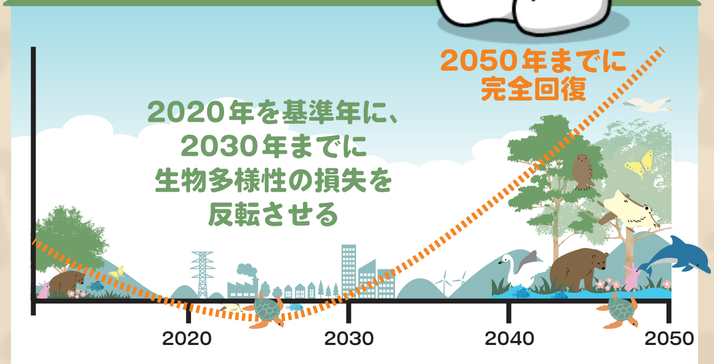
一般社団法人コモンフォレストジャパン　坂田　昌子

ネイチャーポジティブ（自然再興）とは、2020年を基準にして2030年までに生物多様性の損失を止め、回復方向に転じ、2050年までに完全な回復を達成するという世界的な目標です。2022年12月モントリオールで開催されたCBD COP15（生物多様性条約第15回締約国会議）で決議されました。これまでの生物多様性に関する目標は何度も設定されてきましたが、いまだ目標が達成されたことは一度もありません。その厳しい現状を受けて、今回は世界レベル、国レベル、地域レベルなど様々なスケールでのネイチャーポジティブへの貢献と成果を数値で測定することになっています。ゴールに向けた具体的な取り組みで注目されているのは「30by30」です。これは陸域、海域の少なくとも30%を保全、保護することを締約国に課したものです。国立公園など、これまでも自然保護区は設定されてきましたが、OECMと呼ばれる保護区域外であっても生物多様性保全にとって重要な地域も含まれることになりました。日本では環境省が個人の所有地も含めて「自然共生サイト」として認定し、OECMとして国際データベースに登録することを進めています。

日本におけるネイチャーポジティブに向けた取り組みは、市民活動より企業による活動の方が活発です。花王は、洗剤の原料であるパーム油の大量消費が熱帯雨林の違法伐採を生み出していることを転換するため、徹底した調査と対策を行っています。また、同じく明治はチョコレートの材料であるカカオ農園、横浜ゴムは、ゴム農園などにおいて環境破壊を伴うものは使用しないといったように、いまやネイチャーポジティブは、企業のメガトレンドとなりつつあります。

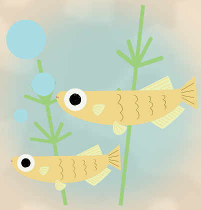
「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター だいだらポジー
© 環境省

生物多様性の指標



2030年に向けたネイチャーポジティブのイメージ

資料：生きている地球レポート2022（WWFジャパン）を参考に作成



その一方で立ち遅れているのが、市民や地域の取り組みです。生物多様性の回復にとって最も重要なのは、生態系ネットワークです。本来、生き物たちの生息地は回廊のようにつながっていました。たとえばアカガエルは、田んぼや湿地と森を行き来していますし、メダカは夏は川で暮らし、冬は暖かい田んぼで暮らすといったように、異なる生態系を行き来しています。しかし、道路やコンクリート擁壁などによって生態系は分断され、生息地が孤立したため、アカガエルもメダカもいまや絶滅危惧種となってしまいました。生き物の移動を可能とする生態系ネットワークをつなぎなおすことは、ネイチャーポジティブというゴールを達成するためには不可欠です。

都会の街路樹、河川などは、生態系ネットワークとして非常に重要です。また公園や校庭、個人の庭も外来種ではなく鳥や虫の訪れる在来種を植えることによって、生態系ネットワークを支える一部となることができます。国家レベルだけではなく、地方自治体、住民、農家、森林所有者、企業、環境NGOが同じテーブルにつき、地域づくりにネイチャーポジティブの視点を取り入れていくことが、今最も求められていることです。

生態系ネットワークの概念

中核地区
都市の郊外に存在し、
他の地域への動植物種の
供給等に資する核となる緑地

緩衝地区
中核地区、拠点地区、回廊地区に隣接して
存在し、これらの地区が安定して存続する
ために必要な緑地を含む緩衝地帯

拠点地区
市街地に存在し動植物種の分布域の
拡大等に資する拠点となる緑地

回廊地区
中核地区と拠点地区を結び動植物種の
移動空間となる河川や緑道等の緑地

資料：生物多様性に配慮した緑の基本計画策定の手引（国土交通省都市局公園緑地・景観課）

ネイチャーポジティブについて、
もっと知りたい方はこちらから！

動画配信中！
さがみはら生物多様性ネットワーク
チャンネル

生物多様性って
なんだろう？

外来種って
ワルモノなの？

事業者会員

会員活動紹介

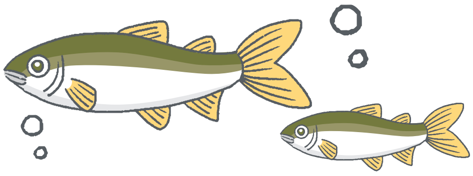
相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら

当館では、相模川の生き物をメインとした館内展示だけでなく、館外での様々な体験型イベントも行っています。
今回はその一部をご紹介します。

↑近隣の幼稚園や保育園と連携して、５月に相模川で『稚アユ放流会』を行い、６月から10月には当施設内の田んぼにて、田植えから稲刈り、脱穀、風選までを行います。

←小学生を対象に10月に開催した『親子で川釣りツアー』では、相模川の環境や生物、川釣りのルールなどについて親子で学びながら、釣り体験をして、どのような生物が相模川に生息しているのかを調べました。

↑小学生を対象に９月に開催した『いきもの観察会』では、県立津久井湖城山公園で草木や鳥、昆虫などの生き物を観察しました。



いずれのイベントでも参加者が自然の中での体験を通して、生き物や環境への興味を持っていただき、自然や命を大切にする心を育んでいただけるように、私たちは日々努力しています。

広田小学校の里山体験学習

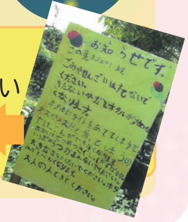
協力：「小松・城北」里山をまもる会

広田小学校では３年生、４年生が小松・城北地域の里山体験学習をしています。

３年生は、津久井在来大豆の種まきから収穫、さらに収穫した大豆で豆腐やきな粉づくりをします。

４年生は、里山に生息するホタルについて学び、ホタルを守るためにできることを考え、実践しました。
○川のまわりのゴミ拾いや、
　ゴミが捨てられないように草むしり
○ホタルのエサであるカワニナの飼育
○看板の設置

- ゴミや洗剤はすてないでください
- ホタルにライトをあてないでください
- ホタルをつかまえないでください
- 大きな音をたてないでください



会員募集中 !! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全に一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

年会費…１口 1,000 円
個人・団体会員 /1 口以上
事業者会員 /2 口以上

生物多様性ポータルサイト

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
（相模原市水みどり環境課内）
住　所：相模原市中央区中央２－11－15
電　話：０４２－７６９－８２４２
Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp